

◇調査・統計

1995年度留学生アンケートを概観して

The Results of the Questionnaire '95
for Foreign Students

野村 美穂子
Mihoko Nomura

1. はじめに

文教大学では全学部合わせて毎年30名前後の留学生を新入生として受け入れている。中でも国際学部の場合、学部本来の性質から考えても外国人学生の存在は重要な意味があり、学部の委員会組織にも特別に留学生委員会が設けられている。この国際学部留学生委員会では昨年度、留学生の生活実態や意識を把握することを意図して、全学の留学生を対象にアンケートを実施した¹⁾。初めての調査ということもあって不備な点も多かったが、協力的な学生も多く貴重な意見が得られた。以下では大量の調査結果からいくつかの項目を抜粋し、留学生に関わる諸問題と大学の現状について簡単に考察してみる。

2. 回答者について

アンケート用紙は湘南・越谷両キャンパスの学生課を通じて留学生に配布した。結果的に回収できたのは53名分である。回答者の概要を表1に示す。

表1：回答者の概要

所 属	人 数	年 齢 別				性 別			出 身 国 別					
		～ 19	～ 24	～ 29	～ ∞	男 性	女 性	無 回 答	中 国	台 湾	韓 国	マ レ シ ア	イ ン ド ネ シ ア	無 回 答
国際 学部	文化	1	1				1				1			
	関係	5	2	2	1	2	3		1	1	3			
	経済	12	4	7	1	8	4		5	1	3	3		
	未定	4	4			2	2		3	1				
	小計	22	11	9	2	12	10		9	3	7	3		
情報 学部	広報	2	1	1			2			1	1			
	経情	4	1	2	1	2	2			1	2	1		
	システム	4	2	1		2	1			1		2		
	小計	9	4	4	1	4	5			3	3	2	1	
文学 学部	日文	17	3	12	2	11	5	1	3	2	7	4		1
	中文	5		4	1	4	1				5			
	小計	22	3	16	3	15	6		3	2	12	4		1
総計	53		18	29	6	31	21	1	12	8	22	9	1	1

略語一覧

〈国際学部〉
文化：国際文化学系
関係：国際関係学系
経済：国際経営学系
未定：学系未定（1年次のため）
〈情報学部〉
広報：広報学科
経情：経営情報学科
システム：情報システム学科
〈文学部〉
日文：日本語日本文学科
中文：中国語中国文学科

3. 生活費について

学生の生活の基盤になっている生活費について尋ね、個人別にまとめたものが表2-1（湘南キャンパス回収分）および表2-2（越谷キャンパス回収分）である。生活費総額については越谷キャンパス分の回答が少ないので何とも言えないが、家賃については明らかに違いが見られる。湘南には親戚の家にただで住んでいるという学生もおり、また越谷には全回答のうち最高額である7万円の部屋に住んでいる学生もいるにはいるが、全体的に湘南の家賃は高めである。割合で見ると、湘南では家賃3万円未満が約16%、越谷では23%であり、3万円以上6万円未満が湘南で約71%、越谷で約59%である。このような結果は北関東と南関東の地価の差に関する一般通念とも合致するが、例えば特に越谷の別科から湘南キャンパスに進学してくる学生などにとっては心理的負担がかなり大きいと思われる。交通費に関しても、越谷の学生が自転車で動ける範囲内で十分生活できるのに対し、湘南の学生は距離に多少の差はあれほとんど全員少なくともバスは利用せざるを得ない。また、湘南では、アルバイトの職場の少なさから大学近辺に住みにくく家賃・交通費が高つくという事情もあるようである。

表2-1：湘南の留学生の生活費

所 属	出身 国	生活費（単位：万円）			
		総 額	うち 家賃	うち 食費	うち 交通費
国 際 学 部	文 韓	11	4	3	1
	関 中	14	6	3	1.5
	関 台	10	4	2	0.8
	関 韓	?	3.2	4	1.3
	関 韓	7	3	2	2
	関 韓	?	0.5	4	1.5
	経 中	7	1	4	2
	経 中	15	6.5	4	1.5
	経 中	3	0	3	0
	経 中	14	3.8	6	2
学 部	経 中	?	3	7	2.5
	経 台	10	2.3	6	1.5
	経 韓	15	6	6	2
	経 韓	10	3.2	4	1
	経 韓	13	5	5	3
	経 マ	9	3.6	3	1
	経 マ	11	3	3	1
	経 マ	10	4	3	1.5
	未 中	8	2	5	1
	未 中	10	4	3	1.5
情 報 学 部	未 中	10	5	2	2
	未 台	?	6	5	1.5
	広 台	7.5	3.6	3	0.5
	広 韓	7.5	3.5	2	2
	経 台	13	5	5	1
	経 韓	15	5	4	1
	経 韓	?	4	5	1.5
	経 イ	10	3	5	2
学 部	シス 台	9	4.9	3	0.2
	シス マ	?	4	3	1
	シス マ	9	4	4	?

表2-2：越谷の留学生の生活費

所 属	出身 国	生活費（単位：万円）			
		総 額	うち 家賃	うち 食費	うち 交通費
文 学 部	日 中	?	2.9	2	1
	日 中	?	?	2.5	1.2
	日 中	8	3.25	4.25	0.5
	日 台	6	3	2	1
	日 台	5	2	2	0
	日 韓	?	4	2	?
	日 韓	?	7	3	?
	日 韓	?	3.3	5	0
	日 韓	13	4.3	3	0.6
	日 韓	12	4	6	2
学 部	日 韓	10	5	3	0
	日 韓	7	2.5	3	1
	日 マ	?	4	2	?
	日 マ	?	2	2	1
	日 マ	8	5	3	0
	日 マ	?	4	2	1
	日 ?	?	6	5	1
	中 韓	?	4	5	1
	中 韓	8	3	3.5	1.5
	中 韓	?	3.3	4	1
学 部	中 韓	10	2	3	1
	中 韓	15	6	5	1

略語一覧

- ? : 無回答
 <国際学部> 文：国際文化学系 関：国際関係学系
 経：国際経済学系 未：学系未定
 <情報学部> 広：広報学科 経：経営情報学科
 シス：情報システム学科
 <文学部> 日：日本語日本文学科
 中：中国語中国文学科
 <出身国> 中：中国 台：台湾
 韓：韓国 マ：マレーシア
 イ：インドネシア

4. 授業やカリキュラムについて

開講されている講義に対する満足度を問う質問項目では、「非常に満足」「まあまあ満足」「あまり満足せず」「非常に不満」の選択肢中、「非常に満足」と答えた学生は湘南で1名、越谷で4名、逆に「非常に不満」と答えた学生は湘南ではいなかったが越谷では1名いた。「あまり満足せず」「非常に不満」と答えた学生にその内容を尋ねたところ、「黑板には順序よく書いて欲しい」「理論的な講義は満足だが、実践的に身につけられるものはない」「役に立たない」「レベルが低い」「単純な知識よりは社会人、成人としての知識を教えて欲しい」といった回答が得られた。また、カリキュラムに聞きたい講義があるかどうかを尋ねたところ、「かなりある」「あまり多くはない」「ほとんどない」の選択肢のうち、「ほとんどない」と答えた学生は湘南ではいなかったが越谷では4名いた。満足度とともに、どう解釈するかは難しいところであるが、越谷の学生の方が志向がはっきりしていて人により満足度に差が出ると言えるかもしれない。

講義での教員の声の大きさや話す速さなどについて尋ねてみた（選択式）。「注意して聞けばほぼ理解できるものが多い」という回答とともに「学生の私語のためによく聞こえないものが多い」という回答が多く見られた。母語であれば周囲のノイズを聞き流して必要な情報だけ聞き取るということはそれほど難しいことではないが、留学生の場合他の日本人学生の私語は教員の想像以上に聞き取りの妨げになっていると考えられる。また、講義の内容や進め方に関する質問の自由記述式回答の中には「日本人学生は問題提起の意識が少ないため、自分まで何となく質問しにくくなる」というものもあり、そういった点では教員が学生全体の意欲をどう喚起するかということも問われていると言えよう。

そのほかに授業やカリキュラム全体に関する自由意見として、「講義で先生があまり板書をしてくれないと用語の理解が難しい」「選びたい科目があっても時間がぶつかったりして履修できないことがある」、「必修を減らして選択の幅を広げて欲しい」といった回答が見られた。

5. 図書館に出身国の新聞・雑誌があるかどうか等について

出身国の新聞・雑誌が各キャンパスの図書館に置かれているかどうか、および、ない場合必要と思うかどうかについて尋ね、国別にまとめた結果が表3である。表でわかるように、特に新聞に関しては越谷キャンパスでは回答者すべての出身国に対応しており、学生もその存在をほぼ完全に認識している。一方、アンケート実施時点においては、湘南の学生は新聞・雑誌双方について満足度がきわめて低い。

留学生の出身国の新聞・雑誌を図書館に置くということは、単に留学生に対するケアというだけに留まらない。日本人が外国の人々と接する機会に恵まれた場合痛感することの一つは、自分がいかに日本のことを知らないかということである。これと同じことが当然日本への留学生にも当てはまる。彼らが日本人学生と交流する際、第一の話題はやはりその留学生の出身国に関することになるだろう。出身国の情報を得る手段が身近にない場合、それはキャンパスにおける国際交流を阻害する一要因になると言ってもよく、日本人学生が国際的視野を持つ機会を減らすことにもつながるのである。

なおアンケートでは参考のために希望する紙誌名も尋ねたが、その結果と上記のような考えから、国際学部ではその後本年度より図書館の協力を得て学部予算で数種類の新聞を購入すること

に決めた²⁾。当面は中国・台湾・韓国・マレーシアの新聞各1紙である。雑誌についても順次検討していく必要があるだろう。

表3：出身国の新聞・雑誌が図書館にあるかどうか／必要か不要か

所属 キャン パス	出 身 国	新聞について					雑誌について				
		有	無いので 必要	無いが 不要	有無を 知らない	無回答	有	無いので 必要	無いが 不要	有無を 知らない	無回答
湘南	中国	5	2		2		4	4		1	
	台湾	4	2				3	3			
	韓国		10					10			
	マレーシア		5					5			
	インドネシア			1					1		
越谷	中国	3					3				
	台湾	2						1		1	
	韓国	12					8	2	1	1	
	マレーシア	2				2	2	1	1		
	不明	1							1		

6. 友人関係について

キャンパス内外の日本人との交流についても選択式で尋ねた。学内に日本人学生の友人がいないという学生はさすがに少ない。知り合うきっかけとしては、湘南では「サークル活動」が最も多く、越谷では「授業」が圧倒的に多い。越谷では所属の専門性がはっきりしていて結束が固いのかもしれない。日本人学生の友人がいない回答者のうち「特に欲しくない」と答えた数名の学生は、その理由として、「年齢差がある」「日本人学生は国際観が足りない」「別のところで友人がたくさんいる」などを自由記述であげている。また、回答者全員に対して日本人学生の友人ができない原因を尋ねた（選択式）ところ「(留学生が)アルバイト等で忙しく大学に長い時間いられない」「日本人が避けている感じがする」「留学生本人が内向的だ」などを選んだ回答者が多かった。その他の自由記述の回答としては「日本人学生には留学生やその出身国について偏見を持っている人も多い」「留学生の説明を最後まで聞かない」「日本人の曖昧心理がよくわからない」「日本人学生と留学生とは年齢が離れているのでつきあにくい」「日本人は内向的で意思疎通がしにくい」などがあった。

学外についても、やはりほとんどの回答者が日本人の友人を持っているようである。知り合うきっかけはアルバイトや国際交流会（パーティー）などが多く、中には教会という答もあった。なお、不動産屋を友人とする回答が複数見られたが、これなどは相手側も友人と思っているかどうかは微妙なところであろう。

7. 保証人について

留学生として日本に滞在する場合種々の場面で保証人が必要である。保証人をどうやって見つ

けたかについて選択式で尋ねたところ、「その他」を除けば「日本人の知人に頼んだ」という回答が最も多かった。「その他」の具体例としては「親戚」（これは韓国人学生に多い）や「アルバイト先の人」などとともに「飲み屋で知り合った人」というものもあった。また、文学部のマレーシアの留学生については大使館で保証を引き受けているようである。

保証人制度に関して困る点を自由記述式で尋ねたところ、「親戚でもあまり親しくないのお土産などに気をつかうし、ビザ更新のときなど頼むのが辛い」「アルバイト先で保証人になってもらっている場合、そのアルバイトをやめたくてもやめられない」などの答が多かった。

このように問題の多い保証人制度であるが、教育機関における外国人学生の受け入れを推進するという観点から、経費支弁が可能であることを立証できる学生については受け入れ機関等による「機関保証」が法律上認められている（ただし、外貨持ち出し制限のある国などからの留学生に対しては認められていない⁹⁾。アンケートの中でこの「機関保証制度」を文教大学で導入して欲しいかどうかについても尋ねてみた。全体としては「実施希望」が大勢を占めたが、回答者の出身国別に見ると、やはり現時点で機関保証制度が適用されない中国の学生の場合は14%強が「不公平なので実施は延期すべきだ」と回答している。ただ、この回答は実は韓国の学生にも数名見られたので、必ずしも自分の利益ばかりを考えているわけではないようである。ほかに「大学で保証人を斡旋して欲しい」という回答が出身国を問わず数名ずつ見られた。機関保証制度は確かに公平とは言えないかもしれないが、保証人制度自体が改善されずしかもほかに良い対策を講じることができなかつれば、留学生別科だけではなく学部学生に関してももう少し熱心に導入について考えていく必要があるだろう。

8. 留学生勧誘策について

キャンパスにおける外国人学生の存在が日本人学生にとっても大きな意味を持つということについては異論がないと思われるが、現実には数年来留学生入試の受験者数は横ばいもしくは下降状態である。そこで、もっと多くの留学生を呼ぶためにはどうしたらよいかということについても尋ねた。表4がその結果である。

表4：文教大学にもっと多くの留学生を呼ぶにはどうしたらよいか

所 属	よ 来 い な く て	宣 伝 テ レ ビ で	に 受 験 案 内 書	下 受 験 料 を 値	げ 学 費 を 値 下	を 充 実 奨 学 金 制 度	提 供 安 い 宿 舎 を	受 験 生 招 待 パ ー ティ ー に	改 入 試 制 度 を 革	そ の 他	無 回 答
国 際 学 部	文 化		1	1	1		1			1	
	関 係		1	5	1	3	4	3	1	1	
	経 済	1	1	4	1	5	4	5	1	3	1
	未 定			2		1	3	2	1	1	
小 計	1	2	12	3	10	11	11	3	6	1	
情 報 学 部	広 報		2		1	1	1	1			
	経 情	1		2		1	1		2		
	シ ス テ ム			1		1	2	2	1		
	小 計	1		5		2	4	4	1	3	
文 学 部	日 文	2		4	1	9	12	8	4	2	1
	中 文			3	1	2	3	2		1	1
	小 計	2		7	2	11	15	10	4	3	2
総 計	4	2	24	5	23	30	25	8	6	7	3

(略語については表1に同じ)

表に見られるとおり、「受験案内書⁴⁾に広告を載せる」「学費を値下げする」「奨学金制度を充実させる」「安い宿舎を提供する」などが多数意見であった。また、「その他」の具体的な内容としては「学校自体の水準を高める」「留学生が日本語学校に行って受験生と話し合う」「海外姉妹校を作ってアピールする」「学内奨学金制度や指定アパート制度といった本学の優れたところを留学生向けの案内書に載せる」などが見られた。なお、留学生のほとんどはもっと多くの留学生仲間を求めているが、中にはこれ以上留学生が増えなくてもよいと考える者も若干名存在する。その理由として、文学部日本語日本文学科の学生から「留学生が少ない方が勉強がうまくできると思う」という回答が得られた。専攻が専攻なので留学生の友人よりも日本人と接したいという気持ちが強いものと推測される。

9. 大学に対する自由意見

大学に対して言いたいことを自由に書く欄をアンケートの最後に設けた。湘南キャンパスの学生の回答としては、図書館への不満（本が少ない、閉館時間が早い）、通学に利用するバスの運行の不規則さへの不満、食堂・売店の品揃えや価格に対する不満、保証人制度に関する不満と制度改革の具体的提案（入学時に一定金額を預けて大学が保証人となる）、国際電話のできる公衆電話設置の希望、郵便局設置の希望などととも、主に中国語系学生と韓国人学生との葛藤からくる留学生会運営の難しさを訴える意見、四大と短大との授業時間をずらしてバスや事務担当各課・食堂等の混雑の緩和を図ってはどうかという提案、日常生活のための必需品は帰国時の処理にも困るのだから高価な物をわざわざ買わなくてもよいようにレンタル方式で貸し出すようにしてはどうかという提案などが見られ、そのほかに「国際化を目指す湘南キャンパスでは、日本人に国際感覚をもってもらうことだけでなく、各国の留学生も自ら国際認知を実行しなければならないと思う」という意見もあった。越谷キャンパスの学生の回答には、湘南の留学生や近隣の他大学の留学生との交流の希望、キャンパスの工事を早く終えて欲しいという希望などのほかに、「たくさんの留学生を受け入れようとする前に、まず留学生が安心して勉強できるように奨学金制度を充実させるべきだ。無理やりたくさんの留学生を受け入れようとしない方がよい」「留学生も学生は学生なので、差別の必然性も優遇の必要性もない」というような意見が見られた。

なお、上記のさまざまな要望のうち、湘南キャンパスにおける国際電話のできる公衆電話については、数年来の要請の結果先頃ようやく1台設置された（キャンパス内に特に広報はなされていない）。これについては騒々しい食堂に設置されたため落ち着いて話がしにくいという声もあるようである。ほぼ同時期に警備室横に普通の電話ボックスが二つ設置されたが、できればそのうちの一つを国際電話兼用にして欲しかったという感じもする。

10. おわりに

今回のアンケートで出てきた回答には、不満・希望・意見すべてについて、ふだん留学生と無意識に接しているだけでは気づかないことも多く、積極的にかつ謙虚に耳を傾ける姿勢の大切さを改めて考えさせられた。今後とも機会を見てこのような調査を継続的に行い、その結果を大学のあり方に着実に反映させていく必要があるだろう。

【注】

- 1) 昨年度の国際学部留学生委員は青木孝誠（委員長）、丸山鋼二、野村美穂子の3名であった（本稿は3名を代表して野村が執筆を担当）。アンケートはB4用紙6枚、大項目だけでも17に及ぶもので、留学生にとってはかなり大きな負担になったかもしれない。
- 2) 留学生入試の受験者増のためにも待遇の改善を図っていくべきだという考えに基づき、本年度入試委員会から予算申請がなされた。
- 3) 機関保証制度を含め留学生の保証人問題については、『留学交流』6巻11号などで詳しく論じられている。
- 4) 現在留学生のための受験案内書としては、日本国際教育協会編『私費外国人留学生のための大学入学案内』や河合塾国際教育センター編『外国人留学生のための大学入試情報』などがある。

（国際学部講師）